



2歳児(ちゅうりっぷ組)より、防災の日などに非常食のカロリーメイト(チョコ味・アーモンドパウダー入り)をおやつで食べます。ナッツ類に食物アレルギーがある場合は代替の品での対応になりますので、アレルギーがわかっている方やご心配な方は担任までご相談ください。



日に日に寒さがやわらぎ、柔らかな春の日差しを感じるようになりました。この時期は朝晩だけでなく、日中も突然冬の寒さが戻ってくることがあるので、上着を準備するなどして衣服の調節を心がけましょう。1年が締めくくりの時期となり、子ども達は4月の頃に比べ身体も心も大きく成長しました。新しい学年で気持ちよくスタートをきれるように、早寝早起きなど生活習慣を工夫していけるといいですね。

今年はすでに花粉の飛散が始まっており、昨年よりも花粉の飛ぶ量が増える予想がされています。子どものスギ(2~4月)やヒノキ(3~5月)の花粉症が増えていますので鼻水が出ているけど、風邪の引き始めなのか花粉症なのか判断がつかない時には、早めに耳鼻科で診てもらいましょう。

「3月3日」は耳の日 3月3日は「みみの日」です。子どもは風邪などの感染症から耳のトラブルを起こすことがしばしばあります。早めに対応が出来るよう、耳の病気や聞こえの異常のサインを知っておけると安心ですね。

耳に関する病気

急性中耳炎

子どもの鼻水が長引くと、鼻水の中にウイルスや細菌が繁殖し、鼻から耳につながっている管を通して耳に侵入して中耳炎を起こすことがしばしばあります。耳の中で炎症が起こってうみがたまり熱を出すことや、鼓膜を圧迫するため強い痛みが起きます。また鼓膜が破れて耳だれ(うみ)が出ることもあります。

こんな症状があれば
耳鼻科へ

- しきりに耳を触って気にしている
- 頭を振る
- 耳を触られることを嫌がる



痛みや違和感のために、耳を触ったり頭を振ったりします。また痛みのために機嫌が悪くなったり、なかなか寝付けなくなったりします。

しんしゅつ性中耳炎

鼻水が長く続いたり、急性中耳炎が治りきらないうちに治療を中断すると、なってしまうことがあります。痛みや発熱などの症状がないため、発見が遅れることがあります。根気よく治療を続けることが大切です。

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)

合併症として難聴があります。予防接種を受けることで病気の感染を防ぐことが重要です。小松市では予防接種の助成が受けられます。

聞こえの異常につながる場合もあります。聞こえの異常は、言葉の育ちにも影響をします。子どもは「聞こえにくい」ことに気づきにくく、正確に表現することが難しいです。大人が子どもの【聞こえにくいサイン】(テレビの音大きい、見えないところから呼んでも気が付かないなど)を知って早めに気づくことが大事です。

耳の健康教室 をしました



きく・ゆり・ちゅうりっぷ組で耳の健康教室を行いました。耳の役割についてお話しし、耳の健康を守るために大切な「耳の近くを叩かない」「耳の近くで大きな音を出さない」「耳の中に小さなものを入れない」「鼻をすすらない」といったポイントを、イラストを使いながら伝えました。また、来年度から実施する聴力検査についても、子どもたちが安心して受けられるように簡単に説明しました。どのクラスもクイズに積極的に答えてくれ、興味をもって話を聞く姿が見られました。